自己評価報告書
2022年度

2023年4月

学校法人 読売理工学院
専門学校 読売自動車大学校

目 次

はじめに	2
1. 学校の教育目標	
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	
(3) 教育活動	
(4) 学修成果	
(5) 学生支援	
(6) 教育環境	
(7) 学生の受入れ募集	
(8) 財務	
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18

別 冊 資 料

1. 学科教育目標
2. 科目の教育目標・授業計画
3. 学生対象授業アンケート集計結果
4. 学生便覧（履修要項）
5. 学校案内
6. 募集要項

はじめに

教育機関である専門学校は、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

2007年6月の学校教育法改正に伴う「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の公布により、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

2004年度より本校独自の評価項目を設定し実施してきたが、2014年度に本校が「職業実践専門課程」の認定を受けたことを機に、文部科学省のガイドラインに基づいた自己評価の様式に沿ってまとめることとした。

「学校関係者評価」を今後も実施することで学校運営の改善に努め、さらなる教育の質の向上に向けて改善をしていく必要があると考える。

1. 学校の教育目標

本学院の理念・目的は学院設立趣意書に「時代の要請に奉仕するためには、大学と工業高校の間を行く徹底した実技教育を目的とする。」(1969年11月20日)と定めている通り、職業に特化した高等教育機関を目指し、読売新聞社が設立した。

本校では充実した職業教育を実施することはもとより、人間性の成長を促すことにより社会で貢献できる人材を育成する全人教育も重要な目的とし、学校運営・教育活動等について改善を常に心がけ、教育の質の向上に継続的に努めることが目標と決意する。

「自己点検評価」(2004年度より開始)や「学校関係者評価」(2014年度より実施)は、こうした決意に基づき行っているもので、今後も「学校関係者評価」により学校運営の改善に努めるが、「教育課程編成委員会」を通し実践的な教育内容と人間力の向上を目指し継続的に取り組む。

これと並行して「読売式教育メソッド」を制定し、学生の「人間力」「専門力」「資格取得力」「就職力」「基礎学力」をさらに向上させるために改善を進めているが、教員の教育力・人間力の向上も不可欠である。教育力向上を実現するために常に前向きな取り組みが必要と考えている。

また2022年度に学院として公表した「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」の三つのポリシーに基づき学校運営をしていく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

在校生が「最高の教育を受けることができた」と思えるような「人間性の成長」と「技術・知識のレベル・アップ」を実感できる教育を目標としている。その実現には、教科書の基本的内容の網羅とより学生に興味を喚起する授業内容を目指し、教育手法の工夫と教員の教育力の向上を継続的に実施する取り組みが重要となる。

自動車の技術的進化は、近年ますます速度を増している。教育内容を技術進化に対応したものとするためには、学内、学外を問わず教員の技術研修をより積極的に実施することで、現在の整備体制や企業が求める人材像を具体的に把握するなどの対応が必要であり、継続的な課題である。

また、研修等で教員が理解した新技術を授業内容に反映する場合は、理解しやすく興味を持たせる授業内容を工夫する必要がある。そのため、教員は新技術の裏付けとなる基礎工学や整備技術の理解を深めることとする。

「教員は自動車エンジニアの先輩として、後輩である学生を大切に育てる」という校風を大切にし、理解しやすく興味を持たせる授業内容を実施するための努力を継続的にしていく。これにより、学生の学習意欲を励起し、授業を通して学生の人間性の向上にも寄与し、さらには学生の定着率向上にも大きな力を持つ重要な取り組みである。

卒業率、国家試験合格率を教育成果ととらえ、学生に対する責務とする視点も忘れない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

各評価項目に対する評価責任者は、次の通りである。

- (1) 教育理念・目標： 校長
- (2) 学校運営： 本部長
- (3) 教育活動： 両学科長
- (4) 学修成果： 両学科長・就職委員長
- (5) 学生支援： 両学科長
- (6) 教育環境： 教務委員長
- (7) 学生の受入れ募集： 広報委員長
- (8) 財務： 本部長
- (9) 法令等の遵守： 本部長
- (10) 社会貢献・地域貢献： 学生委員長
- (11) 国際交流： 事務局長

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 3.8 (←3.8←3.8←3.7←3.4←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校における職業教育の特色はなにか	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

100年に一度といわれる技術変化に対応するための教育が必要となりつつある。今後国土交通省から示される基本方針をもとにカリキュラムを編成する必要がある。

自動車整備士教育が特色ある職業教育そのものであるが、自動車技術と整備技術の急速な変化により、自動車整備事業に大きな変化が起こっている。この変化に対応した整備士教育を取り入れることが求められており、企業との教育連携をさらに充実させ、教育力の向上に取り組むこととする。

② 今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、新技術を取り入れた教育内容に重点が置かれることになるが、これと並行して、基礎工学的な教育をより充実させ理解力と応用力を養成することが必要である。企業が望んでいる人材を育成するため、大きく分類すると学科においては、基礎工学、自動車の仕組み、構造、顧客対応などの教育、実習においては、基礎的な作業内容とより実践的な教育が必要である。

二級課程1・2年次の人材育成像（基礎的な項目の網羅＋実践的内容の教育）と一級課程3・4年次の人材育成像（1・2年次の基礎教育の上に立ったより実践的で高度な知識技術の習得）を明確にする。すなわち、二級課程で求められる整備士としての基礎能力・技術と、一級課程で必要な総合的な応用能力・技術を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。また現状に即した職業教育を行うために、教育における企業連携を継続的に実施する。

③ 特記事項

昨年度から採用された特定整備技術講習を1級整備学科3年生に対し東京運輸局専門官の協力のもと実施できた。また昨年度コロナ禍の影響でほとんどできなかった企業連携教育を実施でき、学生教育に幅を持たせることができた。今後も1級整備学科、自動車整備学科ともに企業連携授業の導入を積極的に実施する必要がある。

2) 学校運営 3.8 (←3.8←3.8←3.7←3.4←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

学生の確保は喫緊の課題となっている。本校は日本人と留学生が共に学び、双方共に就職率や国家試験の合格率の高さを誇っている。わかりやすい授業、就職指導を心掛けていることがこうした結果につながっており、学生や保護者にこうした豊かな伝統と国際性を多面的にアピールしていきたい。

② 今後の改善方策

引き続き入学者の確保を図るとともに、きめ細かな指導、相談体制で、数値目標を定めて退学者を減らすよう努める。

③ 特記事項

特になし。

(3) 教育活動 1 級整備学科 3.7 (←3.7←3.7←3.7←3.6←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

今後、資格試験制度が変わっていく中で、新しい知識や情報を取り入れるための企業とのつながりをもっと深く取れるようにしていく必要がある。

② 今後の改善方策

国土交通省からの指針が出てからが前提ではあるが、新しい教材の導入や技術的ノウハウなどを企業と出来るだけ連携し吸収して学生にフィードバックしていく。

③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動 自動車整備学科 3.6 (←3.6←3.6←3.5←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

職員の能力開発のための研修等に関して昨年と同様に、学生向けの企業研修会に教職員も参加させていただくことで研修機会が増加した。ただし、勤務の都合により全員が受講できていないことも多く有る。

② 今後の改善方策

学生向けの企業研修会を増やした上で、教職員も積極的に参加させていただく。夏季など学生の長期休暇に合わせて、校内で研修会を実施するなど対策が必要。

③ 特記事項

キャリア教育の一環として、ビジネス・マナーをカリキュラムに取り入れている。

(4) 学修成果 1 級整備学科 3.4 (←3.6←3.4←3.6←3.0←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

① 課題

今年度も、1 級筆記は 100%とはいかなかったものの、口述試験の結果も含めて 18 名中 16 名が合格し試験対策の効果は出ている。また、一昨年卒業生の中で口述試験に不合格であった 4 名についても再度指導を行い、口述試験合格に導いた。

第二種電気工事士試験については残念ながら前年の合格率を上回ることは出来なかったため、次年度以降は指導方針を見直していく必要がある。就職については 100%内定を得ることができたが、全般的に活動開始が遅くなっているような傾向がある。

② 今後の改善方策

国家試験については、今年も高い合格率をあげているため、昨年までのノウハウを生かし、早期対策の実施、過去問題の網羅等、昨年度方針を継続して実施していく。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果 自動車整備学科 3.2 (←3.4←3.2←3.0←3.0←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 課題

留学生の日本語能力不足、運転免許の取得遅れにより就職活動の開始時期が遅くなっている点が問題となっている。

退学率の低減については早期の指導、カウンセラーとの連携をするよう工夫しているが、多様化している学生に対応しきれない面も見受けられる。

② 今後の改善方策

基礎学力の低い学生に対するフォロー、カリキュラムの見直し。

留学生の日本語能力の向上と、J-TEST の受験機会を増やして就職活動許可を早期に取れるようにする。また、生活指導を留学生相談室と連携してさらに強化する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援 1級整備学科 3.0 (←3.0←3.1←3.1←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	②	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

課外活動はコロナが落ち着いてきたにもかかわらず活動を行っていたクラブなど自体が消滅してしまったため、課外活動は残念ながらあまり活発に行われているとは言えない状況である。復活を望まれているものも多いため、今後は再度検討していく必要有。

② 今後の改善方策

他校の行動を真似するのではなく、学校として多くの学校が行っている行事や課外活動団体などは、学校の魅力を高めるためにも再検討が必要である。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援 自動車整備学科 3.4 (←3.3←3.3←3.3←3.3←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

高校生対象の進路ガイダンス等で整備士への職業理解、業界理解に関する講話をする機会が増えており、これを更に広げていくことが重要と思う。

② 今後の改善方策

上記高校生対象の進路ガイダンス等から、授業時間内での職業講話等への変更を、高校側に広報していく。また、小中学生に向けた、ミニ4駆イベント等を通じて更に、自動車整備士に関する職業理解を得るような活動が必要。

③ 特記事項

特になし

(6) 教育環境 3.7 (←3.7←3.7←3.7←3.7←3.7←3.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

・設備・工具、教材の老朽化

② 今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付け設備・教材の改善を実施 (設備等：ミッション・ジャッキ、ガレージ・ジャッキ、バッテリー・テスタ、共用工具箱の追加カーリフトの保守管理点検) (教材等：HV実習車両の追加、FFトランスミッション脱着用車両の追加、分解用単体エンジンの補修、ベンチエンジンの修理) ・スペースの有効利用のため、定期的な不要品の廃棄。

③ 特記事項

--

(7) 学生の受入れ募集 (2.7←2.7←2.3←3.3←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・学生募集は、適性に行われているか	4 3 ② 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

① 課題

一時ガイダンスへの参加を控えてしまっていた影響で OC の参加者は 2021 年度よりも減少した。2022 年度末には新型コロナは収束をしているわけでは無いが、高校ガイダンス等への積極的参加に舵を切り、そこからの、OC への参加者も少しずつ増えてきてはいるが、やはり回復には至っていない。

また、高校訪問に関しても訪問方法の変更など実施したが、大きな成果とはなっておらず、地道な営業活動の一環として従来の実施方法に戻しながら訪問担当校との懇親を深める努力が必要であると思われる。

SNS の発信はある程度以上の拡散力をもってはいるが、一部担当者の負担となり、継続性について負担を減らす方法も検討しなければならない。

OC において半日体験実習で、本校で提供する情報（経験）では十分ではなく、コロナ感染対策の方針ならびに予算の再分割で「昼食付の一日体験」などの実施を検討すべきである。

進路ガイダンス、特に模擬授業等の教員手配が可能になり、率先して教員が外部にすることで効果を見込んでいる。

② 今後の改善方策

- ・ガイダンスの参加回数を増やし、ガイダンスの教員対応による OC への誘導を強化する。
- ・高校訪問の担当割を一部変更し、在校生やガイダンスなどで縁のある高校を中心に訪問、訪問時に提供する情報を作成し、本校周知に活用。
- ・SNS の担当を明確にし、継続的に運用できるような負担感に加減をする。
- ・資料請求者を OC へ誘導するための具体的な対応検討
- ・OC の一日体験に変更し、OC の充実度を上げる。(昼食を一緒に取り、在校生との懇親や学校の雰囲気を感じてもらう)
- ・内部広報の充実として在校生の満足度上げを徹底し、縮小した行事などを再検討

③ 特記事項

--

(8) 財務 3.8 (←3.8←3.8←3.8←3.8←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適性に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

コロナ禍の影響で、入学者は読売理工医療福祉専門学校と合わせて、2021、2022年と連続で500人を下回った。学生募集を強化し、入学者を増やすことが喫緊の課題となっている。

② 後の改善方策

学生募集活動への注力のもとより、貸し教室等による事業収入で増収を図り、経営体質の強化を目指す。

③ 特記事項

特になし。

(9) 法令等の遵守 3.8 (←3.8←3.8←3.8←3.8←3.8)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

長年の課題であった給与制度の改革を、組合、従業員の理解を得て2022年度から実施することができた。今後とも公正で安定的な給与制度を維持すべく、不断の点検を続けていく。

② 今後の改善方策

改正公益通報者保護法の施行に合わせて、関連規則の改定等進める。

③ 特記事項

特になし。

(10) 社会貢献・地域社会 3.0 (3.3←3.7←3.6←2.7←2.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携において資格講習や講座の開講はしているが、地域との連携は不足している。 ・健康増進法改正に伴い、成人学生の喫煙マナーを身に付けさせる必要がある。 ・一教育機関として、地域への貢献ができないか検討する必要がある。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育機関として地域へ貢献も検討するが、一部署での活動には限界がある。 ・社会人意識を養うためにも、学校外での部活動、ボランティア活動も積極的に検討する。

① 特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・3月末に広報委員会と協力し、スバルのイベントを開催。近隣の方にも来場していただいた。 ・地域の防犯や安全について、区役所などの公共機関との連携を行い、江東区の「こども110番の家」に登録。 ・特定整備（電子）の整備主任者資格取得講習を3年生及び一般の方向けに実施 ・2級自動車整備技術講習（夜間）を実施

(1 1) 国際交流（必要に応じて）4.0（←4.0←4.0←3.8←3.8←3.5）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか	④	3	2	1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

① 課題

留学生の大半は、すぐに帰国せず日本に残って自動車ディーラーなどで自動車整備士として働くことを希望している。仕事をする上で必須となる日本語コミュニケーション能力をさらに高めて実業界に送り出すことが継続的課題となる。

② 今後の改善方策

日本語能力試験（JLPT）N1、N2 の合格に向け日本語授業の質の向上をさらに図るとともに、オーバーワークなどによるビザ更新時のトラブル防止に向け生活指導を徹底する。

③ 特記事項

勉学意欲が高い優秀な留学生の確保に力を入れ、「読売理工学院留学生指導指針」に基づいて学習、生活の両面できめ細かい指導を徹底した結果、高い国家試験合格率などの実績を維持した。さらに日本語力を高めるため、文京校とともに留学生を対象とした「日本語スピーチコンテスト」を恒例イベント化し、内容のレベルアップを図っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和4年度は、前年度コロナ禍の影響により実施回数が減った企業連携授業を少しでも増やし、実践的な実習内容を取入れること、退学率の改善を目標とし取り組んできた。

5/31現在の在籍数241人に対して全学年での退学者は19人であり、退学率7.88%であり、10%を切ることができた。しかし自動車整備学科1年生の退学者は12名、2年生は6名合計18名であり、退学者のほとんどを占める。このデータを見ると、今後はここの対応が課題となる。

今後も、より充実した教育体制・学校運営を目指し継続的に努力するとともに、臨床心理士カウンセラーとも連携して、学生の心理的な問題点の把握をし、学習意欲の向上が期待できる対策を広い視野で検討することとする。

二級課程の国家試験は、日本人学生については基礎学力の低下、留学生については日本語能力の問題、などあったが、教員・学生双方の努力により2級整備士取得99.1%を達成できた。一級課程の国家試験結果は、筆記試験89.5%、口述試験100%、一級整備士の合格率は89.5%と昨年度の73.9%を大きく上回ることができた。これは昨年度の反省に立ち1級対策授業の見直しの結果である。

一級課程においては、実践的な教育内容を目指し、昨年度から採用された特定整備技術講習を1級整備学科3年生に対し東京運輸支局専門官の協力のもと実施し、学内教員以外の授業を展開した。この技術講習を行っている学校は大変少ないので、今後も継続していきたい。

また、電気を石油に代わるエネルギーととらえ、EV普及と充電インフラ整備が政府の方針となっていることを受け、一級整備士課程のカリキュラムの中に必修教科として「第二種電気工事士」の資格取得のための教育を実施しており、他校との差別化ができています。

二級課程の実習授業では、企業による新技術に関する講習を実施した。職業に特化した教育を実現する方向性を持ち続ける必要がある。

「読売式教育メソッド」は、「人間力」「専門力」「就職力」「資格取得力」「基礎学力」の五つの柱を明文化し、創立以来の伝統である「面倒見のよさ」に代表される教育方針は、学生にどんな力が身につくかという観点からまとめたもので、本校の教育手法の特色と強みをわかりやすく打ち出したものである。今後も、本校が育成したい人材像をより明確にし、それをカリキュラムに反映する取り組みを今後も継続的に取り組む必要がある。

学生募集に関しては、日本人の少子化やコロナ禍における留学生の入国制限等があり、昨年度を下回る厳しい状況であった。女性を含めた日本人学生の募集強化に努めることが重要であり、継続的な課題である。